

# 越谷市 手をつなぐ育成会だより やまびこ

編集 越谷市手をつなぐ育成会  
会長 高野 淑 恵  
〒343-0021 越谷市大林235-9  
TEL・FAX 048-977-1908  
発行 公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会  
理事長 高野 淑 恵  
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂  
2-15-3 母子福祉会館内  
TEL 048-833-0444  
FAX 048-833-0400  
発行日 令和3年9月30日  
購読料 20円は会費に含む



## 『あの頃……』

越谷市手をつなぐ育成会 会長 高野 淑 恵

平素よりご支援ご協力戴いております皆様、厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルスに罹患された皆様には一日も早く回復されますことをお祈り申し上げますと共に、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また医療従事者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

さて、私はもう随分長いこと越谷市からの委嘱で『知的障害者相談員』というお仕事をさせて頂いています。今はとても便利な時代で、分からないこと知りたいことは携帯やパソコンでネットを開けば、あっという間に情報が溢れます。アナログな相談員の配置をやめてしまった市町村もあります。そんな時代のなか、それでも時々、私の携帯に若いお母さんから相談の電話が入ります。そうした若いお母さんたちは、皆さんとても熱心で愛情深く、障害のある我が子と真摯に向き合っている方たちです。そして「藁にもすがれる気持ちで電話しました」「こんなこと聞いたらみっともないと思われませんか?」「電話するのにとても勇気が要りました」などと仰るのです。

世代が変わっても、障害のある子どもを持つ私たちに通ってきたものと同じ道を、若いお母さんが今、歩んでいるのだなと思います。私は一本の藁です。でも、ほんの少しでも、悩めず若いお母さんにとって良い藁でありたいと願っている「藁」なのです。

私自身がかつて一本の藁をどれだけ狂おしく求めたことか。眠れない初日の夜更けに思い出すのは、その頃の自分です。私自身が若く、未熟な母親であったときのことはかりです。

息子が就学前に一年だけ通園施設に通うことになったときのこと。私は自子を連れて面談に行きました。園長先生がニコニコしながら手渡してくれたパンフレットに『精神薄弱児施設みのり学園』とありました。そういう時代であったのですが、容赦ない文字に暗の中が真っ白になりました。そうか、私たちはこういう世界で生きていくかと思いついた瞬間でした。私は泣きませんでした。後日、そのパンフレットを見ただけで泣き崩れたお母さんを見たとき、私は泣きませんでした。もう泣きませんでした。

翌日から1週間、「母子通園」をしました。一日が終わり駅までの道をぼんやり歩きました。息子は私の手を握

り、黙ってトボトボ歩いていきます。駅に着いて電車に乗ります。電車の中では必ずドアの隅っこにふたりで立っていました。ある日、座席に座っていた人が、「ねえ、お母さん、坊やちゃん、靴が片っぱい履いていませんか。えっ、と思って息子の足を見ると、本当に靴は片っぱい履いていました。悲しくて情けなくて、真っ赤になりました。教えてくれたご婦人にお礼を言えたのかどうかも覚えていません。自分の心臓がドキドキする音が耳に響いて。息子は黙って私を見上げています。ダメな母親を責めもせず恨みもせず、むしろすまなそうな眼差しでした。その時初めて、この小さな息子を護れなくてどうする!自分を憐れむのもいい加減にしろ!という思いが私を打ちのめしました。(ごめんね、ごめんね、ごめんね!)本当にダメな母親でした。

息子はすぐにみのり学園が大好きになりました。そのみのり学園は市の統合計画で廃園となり、今はもう在りません。でも私と息子の中に、ちょっと悲しく、でも愛おしい私たちのあの頃の一場面として、ずっと残っていくのだらうと思っています。

## 千草園だより

強い射しが照り付ける季節から移ろい、爽やかな秋風の感じる頃となりました。千草園では新型コロナウイルス感染症予防に引き続き、さらに熱中症対策も行いつつ活動をしていきました。そんな七月から九月まで三か月間の様子を今回はお伝えしていきます。



### 七月のお楽しみ会

【ドライブ・フォトフレーム・うちわ作り】

七月三十日(金)に七月のお楽しみ会を実施しました。事前にアンケートを行い、午前中はドライブと工作【フォトフレーム作り】に分かれました。それぞれの活動に参加した方々は、とても楽しそうにしている様子でした。特に【フォトフレーム作り】では、フレームを飾りつけていき、綺麗な仕上がりがとったようです。『風食は』ほっともっと』のお弁当を注文して、

各々の好きなおかずが入ったものを食べていました。午後は全員参加で工作を【うちわ作り】を行いました。どの作品も個性を發揮して、アートな絵画の様な作品や幾何学的な模様の絵に仕上がったうちわが完成しました。



### 八月【千草園ミニミニ夏祭り】

八月二十日(金)は千草園主催の夏祭りを開催しました。昨年同様新型コロナウイルスの感染防止を考慮して、外部からのお客様をお招きすることは叶わなかったです。しかし、今回は専門学校の実習生が三名と、特別支援学校の新任研修の先生方が三名の計六名にご

参加いただきました。当日は午前中に総勢二十名で会場の設営や風食作り(焼きそば)などを行いつつ親睦を深めていきました。午後の本番では開会式では神輿を担いだり、『パプリカ』を踊って盛り上げました。先生と実習生が行う模擬店ではフライドポテト・フランクフルト・ポップコーン・射的・カキ氷などがありました。暑い日だったので、カキ氷が一番人気でした。真っ先にと押し寄せ、手が止まらずに食べ続ける様子もありました。



### 九月お楽しみ会【粘土・クレイ作り】

9月24日(金)はお楽しみ会

を実施し、今回は全員で同じ活動を行いました。午前は工作で花瓶を作成しました。ペットボトルに紙粘土をコーティングして、さらに上から様々な飾りを張り付けました。皆さん凝りに凝ったため、予定よりも長くなりましたが、个性的かつ芸術的な物に仕上がりました。そして午後は調理でクレープを作りました。各班に分かれてホットプレートを囲み、生地を焼いて、各自が好きなようにトッピングしました。予想通りにクレープの定番であるチョコバナナやフルーツには目もくれず、チョコアイスが多くのお皿を飾っていました

(阿野)



# 野の花だより

ようやく、しのぎやすい季節となってきました。皆様、いかがが経過でしょうか。ワクチン接種に加えて、手洗いやうがいにも気を配りながら、乗り越えていきたいと思います。

今回は、七月から九月までの活動をご報告したいと思います。



## 【お楽しみ会】

七月九日（金）に、お楽しみ会を行いました。今回は、午前中に駐車場を使って、水遊びを行いました。水風船を投げあったり、水鉄砲での当てゲームをしたりと、夏の一時を一杯楽しんでいました。午後は、材料を買い出しに行ったら、かき氷に自分で選んだトッピングをしました。ポッキーを挿したり、練乳をかけたり、クツ



キーを飾ったり等、他にはないオリジナルのかき氷が出来ました。



## 【夏祭り】

八月二十七日（金）には、野の花にて夏祭りを開催しました。

午前中は、飾りつけや模擬店の準備、買い出し等を皆で行いました。

午後は、いよいよ夏祭りの開始です。輪投げゾーンでは、ゲームの景品を紐で釣り上げて、何が当たるかワクワクしながら楽しんでいました。今回初めて登場した、コリントゲーム。支援員が頑張っ手作りした物で、釘の代わりにプラスチックで傾斜を作り、ボールが穴に入った得点に応じて、景品を選んでもらいました。（ちなみに欧米では、ピンボールという名で行われていたのだそうです。）食べ物のお店もフランクフルトとフライドポテトと、かき氷があつて



満足そうにされている方が多く、笑顔が見られていました。お店屋さんとして、呼び込みや手伝いを一生懸命して下さった方もいて、楽しく一日を過ごすことが出来ました。



## 【秋のレクリエーション】

九月十七日（金）は、お楽しみ会として、レクリエーションを皆で行いました。午前中は、チーム対抗で玉入れゲームと、宝探しゲームを行って得点を競い合いました。午後は、おやつ作りとして、みたらし団子を作って美味しく食べました。帰りには、ゲームの景品のお菓子を大事そうにカバンに入れていた姿も見られました。



## 【土曜通所日の活動】

七月、八月、九月の土曜通所日には、恒例の調理実習が行われました。ナポリタンや冷やしうどん、目玉焼きハンバーグ等を皆で協力しながら、作りました。回を重ねるごとに包丁使いも上手くなって、積極的に係わって下さる姿は、とても頼もしく感じました。

また、レクリエーションとしておやつ作り等も行い、皆さんが楽しめるように日課を工夫して行きました。埼玉県でも、命を守るための措置が少しずつですが、作られています。私達に出来る事を利用者さんと一緒に頑張りがら、毎日を元気に過ごしていきたいと思

（高野）

## 会計報告

《 賛助会費 》 6,000 円 (6 口)

《 売上金 》

・わかめ	4,000 円
・ごま	2,800 円
・お茶	6,480 円
・そうめん他	5,700 円

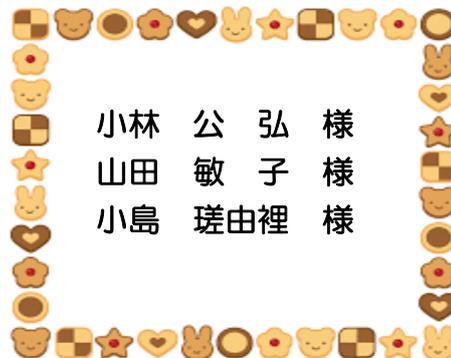
ご支援ありがとうございます

### 賛助会員紹介

中村 甫尚 様  
齊藤 ゆり 様

よろしく申し上げます

### 千草園クッキー ご購入 ありがとうございました



小林 公 弘 様  
山田 敏 子 様  
小島 瑳由裡 様

### ◇ 編集後記 ◇

私は、とてつもなく不安になります。もし障害のある息子がコロナに感染したら長時間身体を拘束される点滴治療や酸素マスクに耐えられるだろうか。切り札のワクチンも明るい未来へのチケットとはなりません。今は、経口治療薬の一日も早い実用化を望んでいます。新しい年を迎える頃には、うれしいニュースが届き、「コロナに打ち勝つ」一歩が踏み出せていますように。(猪鼻 孝子)

### グループホームしゅしゅに 物品の寄付をいただきました



上野 美樹 様  
ありがとうございます